



東北大学理学部化学科 2026

Department of Chemistry, Faculty of Science
Tohoku University

実験から発見へ





都会と自然が調和する、仙台。

この恵まれた環境の中に、
東北大学理学部化学科の学び舎があります。



OUR CONCEPT

実験から発見へ

物質を取り扱う学問である化学は、基礎科学のみならず工学、生命科学、医学、薬学などの幅広い分野の基礎をなす学問であり、その役割はますます大きくなっています。東北大学理学部化学科では1911年の開設以来、第一線で活躍する研究者こそ真に質の高い教育を可能にするという考え、すなわち「研究第一主義」という伝統的な学風を堅持してきました。100年を超える歴史の中で卒業生は約4,000人に達し、日本・世界を支える優秀な化学者を輩出してきました。みなさんも、この仙台の地で、化学者として新たな発見を目指しませんか。



豊富な教員数による、きめ細やかな教育。

東北大学理学部化学科では、学生あたりの教員数が多いため（1学年70人の学生に対して59人の教員）学生一人一人に合わせた丁寧な教育指導を受けることができます。学部1、2学年では、無機化学・物理化学・有機化学・生物化学など、化学の多様な分野を網羅した専門的な講義を受講します。講義を担当する教員は、最先端で活躍する研究者でもあるため「教科書的な知識」だけでなく、

実際の研究と関連した「実践的な知識」を学ぶことができます。また実験に重点を置いていることも特徴の一つで、2学年後期から始まる学生実験によって、早い時期から知識と実験技術の両方をバランス良く習得することができます。また中学校や高等学校の教師を目指すためのカリキュラムが用意されています。

専門的な知識を学ぶことに集中できる研究環境。

本化学科では、他大学よりも半年早い3学年後期から、自分の最も興味がある分野の研究室に所属し、最先端の研究を通して専門的な知識を学ぶ生活が始まります。研究活動は、今までの「答えがある問題」から「誰も答えを知らない問題」を解き明かすことを目指します。もちろん最初は分からないことだらけですが、教員からの指導や、大学院の先輩からのアドバイス、本学が誇る最先端の設備など、充実

した研究環境が皆さんの課題・卒業研究をサポートしてくれます。課題・卒業研究の内容が学術的に評価され、国際的な学術誌に掲載されることや、国内外の学会で発表することもあります。研究活動を通して新しい発見をした時、何物にも代えることのできない感動の瞬間が待っています。

学生支援

授業料免除 … 経済的理由により納入が困難な場合、申請をして認められれば免除になる制度です。
奨学金 … 日本学生支援機構の奨学金や民間奨学団体などによる奨学金制度です。
オフィスアワー … 化学科の講義に関する質問や相談を、担当の教員または大学院生が受け付けています。

学部学生の表彰

青葉理学振興会奨励賞 … 優秀な学業成績を収めた理学部3年次学部学生を表彰します。
荻野博・和子賞 … 優秀な学業成績を収めた化学科3年次学部学生を表彰します。

01
GRADE

化学の基礎とともに一般教養を幅広く学びます

川内キャンパス



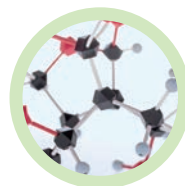
総合教育

1 SEMESTER

02
GRADE

2年生の後期から青葉山でより専門的な授業と学生実験が始まります

青葉山キャンパス



総合教育 | 専門教育

4 SEMESTER

03
GRADE

3年生の後期から各研究室に所属し、研究の進め方を学びます

研究室配属



専門教育 | 課題研究

5 SEMESTER

04
GRADE

卒業研究発表会に向けて、自ら研究を進めます

卒業研究発表



卒業研究

7 SEMESTER

8 SEMESTER



INTERVIEW

豊かな自然の中で基礎から学び、未知の化学分野を探求する。



First Grade / Okada Sae

なぜ東北大学理学部化学科を受験しようと思いましたか？
入試対策についても教えてください。

私が東北大学理学部化学科を志望したのは、高校2年生の夏です。高校での学習や実験などを通して、私たちの生活の身近に密接に関わる化学の面白さを実感し、大学では化学分野を研究したいと考えるようになりました。ホームページを見て、東北大学理学部化学科では物理学や生物学とも関連する研究が行われていることを知り、多種多様な研究が行えるという点に魅力を感じました。実際にオープンキャンパスに参加し、青葉山の自然豊かな環境や整った研究施設に惹かれ、ここで学びたいという気持ちが強くなりました。私は大学附属高校からの受験だったので、高校3年生の春までに英語数学の基礎を固め夏までに理科の基礎を固めることを目標に、参考書や塾での学習を活用しました。受験直前には東北大学の過去問を9年分解き対策しました。東北大学の理学部化学科に入学したいという強い気持ちを忘れずに取り組んだことが、合格につながったのだと感じています。

新しく始まった大学生活をどのように感じていますか？
また、今後の抱負について聞かせて下さい。

東北大学は総合大学であり、留学生を多く受け入れていることもあって、多くの異なるバックグラウンドを持つ人達と日常的に関わることができます。実際、私も授業やサークルで、自分とは違う学部の人達との交流に日々刺激を受けています。初めての一人暮らしや履修する授業を選択する仕組みなど、高校までとは全く異なる環境や制度に新鮮さと楽しさを感じています。今の段階では、化学のどの分野に進むか決めていませんが、研究室に配属されるまでに幅広い化学分野について学び、本当に興味のある分野を見つけたいと考えています。将来社会に貢献することのできる研究者になることを目標に、日々の学びを大切に努力を重ねていきたいです。

東北大学理学部化学科 1年 岡田 紗英さん
中央大学高等学校 出身

川内キャンパスでの生活

約300万冊の蔵書を誇る図書館や自由に利用できる運動施設など、充実した環境で学生生活を送ります。授業やサークル活動などを通して、文系理系の垣根を越えた様々な友人に出会えるのも総合大学の強みです。



INTERVIEW

多角的な視点を養い、次世代電池の未来を切り拓く。

研究室ではどのように研究に取り組まれていますか？
研究室生活についても教えてください。

私の研究テーマは、次世代の二次電池として期待される「リチウム酸素電池」の反応過程を、赤外分光法を用いてリアルタイムで観測することです。当初は先輩の指導を仰ぐばかりでしたが、今では自分で条件を設定して一連の実験を動かせるようになりました。世界で誰も試したことのない条件に挑み、未踏の道を切り拓く感覚には、えも言われぬ高揚感があります。また、様々な分野で研究をしている仲間や先輩方との交流も大きな刺激になります。週に一度の雑誌会(論文紹介や進捗報告をします)では、学年、国籍を問わず鋭い議論が飛び交うビリビリとした緊張感がありますが、一歩研究室を出れば、野球観戦や忘年会、旅行を楽しむなど非常に仲が良いのが特徴で、各自が趣味と研究を両立させています。このメリハリのある環境こそが、多角的な視点を養い、研究をより発展させる源泉になっていると感じています。

将来の目標や学んだ化学で
どのように社会へ貢献したいか教えてください。

将来は、大学で培った電気化学の知見を活かし、エネルギー問題の解決につながる次世代電池の研究開発に携わりたいと考えています。再生可能エネルギーの普及には高性能な二次電池が不可欠ですが、その反応原理には未解明な点が多く残されています。実験により真理を探究する化学の研究を進める中で、未知の事象に自らの手で挑む面白さと、新たな価値を生み出す創造性に強く魅了されました。今後は、研究室で経験した「未知に挑む高揚感」を原動力に、社会のニーズに真摯に向き合いながらも、知の探究に対する純粋な情熱を忘れない研究者を目指します。持続可能な地球環境を次世代へと受け継ぐことが、私の使命だと確信しています。

東北大学理学部化学科 4年 佐藤 壮真さん
福島県立白河高等学校 出身

Fourth Grade / Saito Soma



青葉山キャンパスでの生活

専門的な授業や研究室生活を通じて、化学科の教員・先輩と直に接しながら化学を学ぶ機会が増えていきます。また、学科内のスポーツ大会や卒業祝賀会など、研究室間の交流を楽しむ機会も多くあります。



世界初の最先端研究による真理探究と、化学の力で人類社会の未来を拓きます。

化学とは物質やその変化を原子・分子レベルで理解することを目的としており、基礎科学のみならず工学、医学、農学などの幅広い分野の基礎をなす大変重要な学問です。このことから、化学は「科学の中心=セントラルサイエンス」と考えられています。

東北大学理学部化学科には、世界初分野に踏み込んで道を切り開こうとする創造的な研究の学風があります。本化学科の研究室で行われているのは、物質の創製、分離・分析手法の確立、物質の

構造・物性・機能・反応性の解明、生命現象の理解などを通じた化学の真理探究です。本化学科では4名の文化勲章受章者をはじめ、数多くの研究者が未開の地を切り開き化学の分野に足跡を残してきました。

未来に向かって、環境と人類社会が調和した持続可能な物質世界を築いていくために、化学の役割はますます重要になると期待されています。

Keywords of
Our Chemistry

新しい分子を
合成する
Syntheses of
New Molecules

生命現象の
謎に迫る
Solving
the Mystery of Life

新たな物性を
発見する
Discovery of
New Properties

化学の
Central Science
真理探究

化学分析の
手法を開発する
Development of Methods
for Chemical Analyses

計算で化学現象を
理解・予測する
Theoretical Prediction and
Understanding of
Chemical Phenomena

原子・分子を精密に
観測する
Microscopic Observation of
Atoms and Molecules



核磁気共鳴装置

超伝導マグネットを用いて、化合物中の原子配列や分子の立体構造を解析



質量分析装置

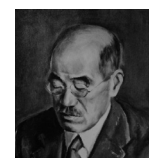
分子量及び分子組成を測定し、有機化合物の同定や構造決定に利用



超高真空相分分光装置

宇宙空間並みの真空中で分光法を用いて分子の構造や化学反応を観測

文化勲章受章者



眞島 利行

Rikō Majima

漆の主要成分(ウルシオール)の構造解明。日本の有機化学を拓き、多くの研究者を輩出。1911年～1933年本化学科教授。



赤堀 四郎

Shiro Akabori

醤油の香り成分の研究。アミノ酸残基の決定法(赤堀法)を開発。タンパク質・酵素に関する先駆的研究。1925年本化学科卒業。



野副 鐵男

Tetsuo Nozoe

ヒノキの精油成分(ヒノキチオール)の構造解明。非ベンゼン系芳香族化学を創出。1926年本化学科卒業、1948年～1966年本化学科教授。



中西 香爾

Koji Nakanishi

有機化合物の画期的な構造決定手法を開発。数多くの天然物の構造を決定。1963年～1969年本化学科教授。



化学科では多様な分野を対象に最先端研究を行っています。

学生は3学年後期からこれらの研究室に所属し、最先端の研究を卒業研究の形で行います。そして4学年の最後に研究成果を卒業研究として発表します。

無機化学

Inorganic Chemistry

橋本 久子 教授



新しい金属化合物を創り出す

遷移金属を中心に持つ分子性の金属化合物は、金属やそれに結合した配位子の種類、結合状態、立体配置に依存して多様な性質や機能を示します。当研究室では、周期表にある様々な遷移金属や主要族元素を操って、新しい化学変換反応の触媒となる錯体や、未知の電子特性を示す機能性分子の創出を目指しています。

錯体化学

Coordination Chemistry

坂本 良太 教授



未来志向の錯体化学

多座配位子と金属イオンにより構成される「配位高分子」においては、個々の有機配位子・金属イオンでは実現不可能な機能を創出することができます。当研究室では、配位高分子を対象とし、「協同性に基づいた新奇物性・機能性の創出」をテーマとして研究を行っています。さらには、これらの機能性を「エネルギー貯蔵・エネルギー変換」に展開し、持続可能な社会の実現に貢献します。

合成・構造有機化学

Synthetic and Structural Main Group Chemistry

岩本 武明 教授



元素を生かして新物質を創る

有機化合物にケイ素やリンなど典型元素を組み合わせた有機典型元素化合物は、元素と結合様式の組み合わせにより特異な構造、反応性と物性を生み出す「物性と機能の宝庫」です。私たちは新しい有機典型元素化合物群を創り出し、構造、反応性と機能の探索、新概念の構築により、物質科学の発展に貢献することを目指しています。

学際基盤化学

Fundamental Chemistry

金 鉄男 教授



分子変換技術を基盤として分子機能を創出する

高度に制御された π 電子系の立体・電子構造が新たな光電子機能を創出するという原理に基づき、「新規分子変換原理の創出」、「 π 拡張構造の精密構築」、および「物性・機能の開拓」を三つの柱として研究を展開しています。特に、高反応性化学種や新規触媒系を精密に制御する独創的な合成戦略を構築し、従来困難であった π 骨格の構築を実現します。これにより、新たな構造と機能を併せ持つ π 電子系材料を創出し、有機エレクトロニクス分野の発展に貢献することを目指しています。

量子化学

Quantum Chemistry

藤井 朱鳥 教授



レーザー光で探る分子機能の起源

よく知られた物質の性質や機能の多くは、実は孤立した1個の分子には存在せず、複数の分子が集まることによりはじめて発現します。私たちは、「分子クラスター」と呼ばれる、2~数百個の分子から成る集団の姿をレーザーにより観察し、分子のミクロな振る舞いがどのようにして物質の性質・機能へと繋がって行くのかを明らかにしています。

分析化学

Analytical Chemistry

西澤 精一 教授



バイオ分析化学 ～ケミカルプローブの創製～

生命現象を分子レベルで解明することは、21世紀の化学が担うべき魅力的な研究課題です。私たちは、高度な生命現象を司るキープレイヤーとしてのDNA・RNAや細胞外小胞を研究対象として、これらの機能や機構を解明するための機能性物質(ケミカルプローブ)を作り出すことで、生命科学研究への貢献を目指しています。

有機化学第一

Organic Chemistry

上田 実 教授



天然有機化合物のケミカルバイオロジー

大村先生のノーベル賞に見られるように、天然有機化学は日本のお家芸です。当研究室では、伝統的な天然有機化学を、化学の新たな中核分野であるケミカルバイオロジーと融合した研究を行います。食糧や環境に大きく影響する植物を対象に、化学による生物制御、生物現象の化学的解明により、社会に大きなインパクトを与える成果を目指します。

有機分析化学

Natural Product Chemistry

林 雄二郎 教授



天然物への挑戦

例えば抗癌作用のような重要な生物活性を有しているもの、超微量しか得られない化合物が天然にはあります。生体内では酵素によって反応が行われていますが、酵素を凌駕する素晴らしい反応を見つけ、最先端の「有機合成化学」を駆使して大量生産し、さらに天然物を超える化合物を創り出し、人類の福祉に貢献することを目指しています。

理論化学

Reaction Dynamics

美齊津 文典 教授



原子分子を衝突させて構造や反応を探索

粒子同士が衝突して相互作用すると、散乱や化学反応が起こります。宇宙空間並みの真空中で粒子を衝突させ、質量分析や分光法を使うと、粒子の構造や反応の機構など、化学の最も基本的な性質を明らかにできます。当研究室では、金属酸化物やイオン結晶の粒子の小集団(クラスター)を対象として、衝突を利用した構造や反応の研究を進めています。

有機物理化学

Organic Physical Chemistry

叶 深 教授



界面構造の解明で新しい電極触媒の開発

触媒反応をはじめ多くの化学反応は、物質の表面あるいは界面で起こります。従って、物質の表面・界面における微視的構造評価と制御は、化学反応の本質的理解および新機能物質の創出において極めて重要です。本研究室は最先端計測技術を用いて、物質表面・界面で起こる化学反応の動的挙動を高感度に捉え、表面・界面構造と反応活性との関係を調べています。

反応有機化学

Organic Reaction Processes

寺田 眞浩 教授



分子変換プロセスを触媒で刷新する

「モノづくり」を原点とする化学に求められているのは、欲しいものだけを作る選択的な分子変換に加え、効率の追求による環境に配慮した高度な分子変換プロセスの開拓にあります。有機分子や金属錯体の特性を生かした次世代分子触媒を創成することで、選択性や汎用性に加えて効率に優れた新しい分子変換法の開発を目指しています。

無機固体物質化学

Inorganic Solid State Chemistry

福村 知昭 教授



結晶の原子を操り、物質を創る

周期表の元素を組み合わせて化合物を合成すると、想像を超える多様な機能が発現します。超高真空技術や強力レーザーなどの最先端技術を駆使して新しい固体を合成することで、室温超伝導や高温強磁性といったエネルギー問題にも貢献する究極の機能を創出し、新しい物質化学を構築することを目指しています。

生物化学

Biochemistry

大橋 一正 教授



細胞が外環境を感知して応答する分子機構を探索

私たちの体を構成する細胞は、外環境からの力負荷や周りの硬さ、浸透圧、酸素濃度などの環境の変化を感知して適切に応答しています。細胞がこれらのストレスを感知して応答し、組織・器官の形や機能を制御したり細胞を生産させる分子機構が存在します。これらの分子機構を解明し、医療や健康に寄与する研究を目指しています。

最新の研究成果

最新の研究成果や詳しい研究内容は、本化学科ホームページにてご覧いただけます。



www.chem.tohoku.ac.jp/research/

計算分子科学

Computational Molecular Science

森田 明弘 教授



理論計算の最先端

化学に現れる分子の振る舞いを、電子や原子の物理法則の方程式を解いて明らかにする計算化学の分野が急速に進歩しています。私たちはコンピュータを駆使して、溶液や界面の分子を「見てきたように」調べて、その化学現象のメカニズムまで詳しく解明する研究を進めています。

有機化学第二

Organic Chemistry II

瀧宮 和男 教授



合成化学で機能を創る

ベンゼンに代表される π 電子系有機化合物は、分子骨格に強く束縛されない π 電子を持つため、分子集合状態において様々な電子機能の舞台となります。新しい分子を創りだし、それらを精密に並べることによって、電気伝導、光電変換、半導体機能などを実現し、物質・材料化学におけるブレイクスルーを目指しています。

放射化学

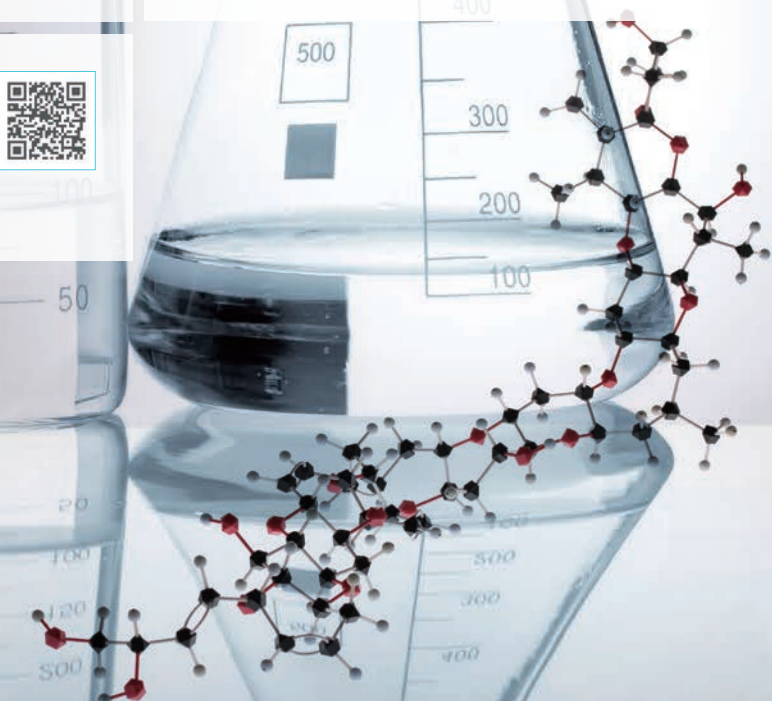
Radiochemistry

木野 康志 教授



エキゾチック原子・分子と放射性同位体の化学

自然界には電子や原子核以外にも様々な粒子があり、これらを取り込んだ原子や分子は、エキゾチック原子・分子とよばれ、風変わりな性質を持ちます。宇宙の成り立ちの解明から新材料の分析まで様々な分野に取り組んでいます。また、放射線計測技術を活かし、福島原発事故で放出された放射性物質の生物への影響調査も行っています。



卒業生が幅広い分野へ就職し、 国内外で活躍しています。

4年生の9割が大学院へ進学し、研究を続けます。修士課程の後、約2~4割が博士課程に進学します。就職を希望する学部生・大学院生の毎年の就職率はほぼ100%であり、民間企業・公務員など幅広い分野に就職しています。また、博士課程修了者は前述した就職先に加えて国内外の教育・研究機関で博士研究員及び大学教員として活躍しています。

過去5年間の進学・就職状況

学部卒業生

修士課程進学 **89%** / 就職 **6%** / 他大学進学など **5%**

修士課程修了者

博士課程進学 **32%** / 就職 **62%** / 他大学進学帰国など **6%**

主な就職先

民間企業

アース製薬、アクセンチュア、アドバンテック、エヌ・ティ・ティ・データ・イントラマート、カネカ、キオクシア、麒麟ホールディングス、クレハ、ソニー、ソニーセミコンダクタソリューションズ、ダイキン工業、ダイセル、トヨタ自動車、ニトリ、パナソニックエナジー、パナダイナムコビジネスアーク、富士フイルム、ブルデンシャル生命、みずほ信託銀行、レゾナック、ロシュ・ダイアグノスティクス、旭化成、旭化成メディカル、楽天グループ、古河電気工業、三井化学、三井金属鉱業、三益半導体工業、三菱UFJ銀行、三菱ガス化学、三菱ケミカル、三菱マテリアル、三菱鉛筆、三菱自動車工業、四国旅客鉄道、住友ベークライト、住友化学、住友電気工業、十全化学、昭和電工、信越化学工業、積水化学工業、太陽ホールディングス、大阪印刷インキ製造、大正製薬、大日本印刷、大陽日酸、第一三共、中外製薬、帝人、島津製作所、東ソー、東京エレクトロン、東芝、東日本旅客鉄道、東洋紡、日亜化学工業、日東電工、日東紡績、日本ガイシ、日本たばこ産業、日本ロレアル、日本航空、日本触媒、日本電信電話、日本板硝子、日立ハイテク、日立製作所、浜松ホトニクス、武田薬品工業、野村総合研究所、AGC、DIC、ENEOS、GSユアサ、HOYA、JFEスチール、NTTデータグループ、日興証券、Thermo Fisher Scientific、UHA味覚糖 など

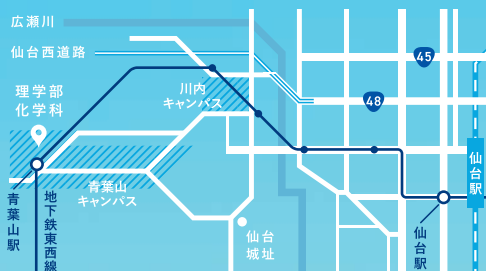
公務員及び教員

原子力規制庁、警察庁、地方公務員（宮城県、福島県、群馬県、神奈川県）、中学・高校教員（栃木県、埼玉県、愛媛県）、東京都立産業技術研究センター、长江存储科技有限责任公司 など

研究機関

下記の研究機関の教員および博士研究員

東京大学、東京理科大学、東北大学、福島工業高等専門学校、高エネルギー加速器研究機構、産業技術総合研究所、日本原子力研究開発機構、分子科学研究所、クルナ大学、浙江大学、シンガポール大学、トゥイロイ大学、ドルトムント工科大学、中国科学院大连化学物理研究所 など



地下鉄東西線：仙台駅から青葉山駅まで約9分 ¥250

東北大学理学部化学科

〒980-8578

宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号

<http://www.chem.tohoku.ac.jp>

